認知的経済性の個人差とメンタルヘルス

— 予備的検討 —

○藤澤隆史¹・小杉考司²・藤澤等³ (非会員)

(¹ 福井大学子どものこころの発達研究センター・² 山口大学教育学部・³ 株式会社 にんじんネット)

キーワード: 認知的経済性、心理次元、定量化、メンタルヘルス

Individual differences in cognitive economy and mental health: A preliminary study

Takashi X. FUJISAWA¹, Koji E. KOSUGI² and Hitoshi FUJISAWA^{3,*}

(¹ Univ. of Fukui, ² Yamaguchi Univ., ³ NinjinNet Co., Ltd.)

Key Words: cognitive economy, psychological dimension, quantification, mental health

目 的

社会心理学分野において、認知的経済性の原則は、認知的複雑性として、その測定法や個人差に関する数多くの先行研究がなされてきた。認知的複雑性の定量化手法としては、回答者ごとに評定刺激に対する評定項目間の相関係数を算出し、固有値分解による第一固有値を認知的複雑性の指標とするものや (Vannoy, 1965; 小杉ら, 2004)、評定刺激間の評定パターンの一致度から TPC (Total Person Complexity) を算出し、指標とするもの (林, 1976) などが検討されてきた。

これらのモデルに共通する考え方は、認知的複雑性の高い者は、人間関係や事物を多角的に、現実即した形で評価することができるという点であるが、一方で、多角的な評価のためには、それだけ多くの情報を有する必要がある。言い換えれば、認知的複雑性の低い者は、人間関係や事物の評価において、情報圧縮度の高い、つまり、認知的経済性が高い情報処理方略をとっていると考えられ、それゆえに認知モデルと現実との乖離が生じやすいと推測できる。

一方で、抑うつ傾向の高い者に特徴的な認知スタイルの代表的なものとしては、「べき思考」や「全か無か思考」、「過度の一般化」、対人関係で言えば、「敵か味方かをはっきりさせたい」などの行動特徴が認められる (Burns, 1980)。以上の傾向は、対人関係や事物の多様性・複雑性を認めない認知的複雑性の低さを示しており、このことから、認知的複雑性が低い者 (= 認知的経済性が高い者) は、抑うつ傾向が強いことが推測される。本研究では、認知的経済性の定量化手法を用いて、認知的経済性の個人差と抑うつ傾向との関連性について検討する。

方 法

参加者 健康成人 9 名 (男性 3 名、女性 6 名、平均年齢 29.8±5.8 歳)。

認知的経済性測定 認知的経済性の測定には、対人認知研究で広く用いられている役割構成体領域テスト (Rep テスト) を用いた (Kelly, 1955; 林, 1976)。林 (1976) の方法に基づき、人物の選好度 (好・悪) × 性別 (男・女) の 4 名の人物を評定させ、さらに本研究独自のものとして自分への評定を加え、計 5 名への人物について、それぞれ 20 の特性形容詞対を用いて評定させた。それらのデータを用いて、回答者ごとに評定項目に対する評定刺激間の相関係数を算出し、固有値分解した。指標としては、第一固有値と以下の式に基づいて心理次元 (PD) として定義し、値を算出した (= 固有値 E_i の分散)。

$$PD = n / [\sum (E_i - E_{ave})^2 / (n+1)] \dots (1)$$

メンタルヘルス測定 既存の心理尺度を用いて、抑うつ傾向と主観的幸福感の測定を行った。抑うつ傾向の測定には日本語版 BDI を用いた (Burns, 1980)。主観的幸福感の測定には、日本語版主観的幸福感尺度を用いた (島井ら, 2004)。

結果と考察

認知的経済性指標 第一固有値と心理次元の間には強い負の相関が認められた ($r = .978, p < .01$)。これは第一固有値と心理次元は共に類似した指標であることを示している。以下では、次元 PD を指標としてメンタルヘルスとの関連性を調べる。

メンタルヘルスとの関連 抑うつ傾向との関連性では、心理次元 PD と抑うつスコアとの間に、中程度の負の相関が認められたが、検定結果は有意でなかった ($r = -.332, p = .397$)。散布図を図 1 に示す。これは心理次元が低いほど、抑うつ傾向が高いという可能性を示唆しているが、サンプル数が不十分であるため、今後は、サンプル数を十分に確保した本調査を実施する必要がある。次に、主観的幸福感との関連では、現時点では、明確な傾向が認められなかった ($r = .05, p = .888$)。

図 1. 抑うつ傾向スコアと心理次元

本研究では、認知的経済性の高さは、メンタルヘルスに負の影響をもたらすという仮説の下、認知的経済性の定量的尺度を提示し、抑うつ傾向と主観的幸福感の関連性について検討した。その結果、心理次元と抑うつ傾向の間に負の関連性がある可能性が示唆された。抑うつ傾向の BDNF 機能障害仮説では、遺伝子多型 (rs6265) において、Met ホモ型は他のアレルに比較して、シナプスにおける機能低下がもたらされていることが、記憶課題成績の低さとともに関連性が明らかにされている (Egan et al., 2003)。さらに BDNF 多型は、うつ病および抑うつ傾向との関連性も示唆されていることから、今後の本調査では、記憶課題および遺伝子多型の測定についても実施し、それらの関連性についても併せて明らかにしたい。

引用文献

- ◆ Burns, D. D. (1980) Feeling good. HarperCollins.
- ◆ Kelly, G. A. (1955) The psychology of personal constructs New York: Norton.
- ◆ Egan, M. F. et al. (2003) The BDNF val66met Polymorphism Affects Activity-Dependent Secretion of BDNF and Human Memory and Hippocampal Function. Cell 112, 257-269.
- ◆ 小杉ら (2004) パラメトリックと固有値分解. 理論と方法, 19, 87-100.
- ◆ 林 (1976) 対人認知構造における個人差の測定(1). 名古屋大学教育学部紀要 23, 27-38.
- ◆ 島井ら (2004) 日本語版主観的幸福感尺度 (SHS) の信頼性と妥当性の検討. 日本公衆衛生雑誌, 51, 845-853.
- ◆ Vannoy, J.S. (1965) Generality of cognitive complexity-simplicity as a personality construct. Journal of Personality and Social Psychology, 2, 385-396.